2017 年 11 月 2 日 D 班　藤原誠

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』岩波新書 2005 年

序章　危うくなった景気回復

疑問点・論点

「2004 年の半ば、政府が自信をもって景気回復をうたっていた時においても『景気回復と言われるがその実感はない』という声が強かった」（6 頁）とあるように 2002 年から景気が回復に向かっていたがその恩恵を実質的に感じていたのは大企業の人などの一部の人たちだけだった。さらに業種や地域の違いなどでも差は生まれた。

中小企業、非製造業などの景気回復を実感できていない人々が、景気が良いと感じるためにはどうしたらよいのだろうか。

C: 国が企業に資金を提供する代わりに、給与専用の口座を設けさせて賃上げに使わせ、従業員の給与が指定した賃上げ率に達しているかを半年に一回、国が指定した機関に報告する義務を課す。

B: 1　個人消費の増加を図る。
　　大企業の内部留保を減らし中小企業の社員の給与を上げる。
2　構造改革の見直し。

A: 1　中小企業の従業員や非正規雇用の給料を上げる。
2　規制緩和を行って環境を整えてあげることで中小企業が儲かるようにする。

D: 中小企業の失業率を減らし雇用者を増やしたり技術革新に力を入れたり、資本ストックを増やしたりして、経済的成長を促すことによって GDP 上昇を目指す。